

# 服飾デザイン科の取組（令和元年度）

服飾デザイン科では、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力、確かな知識・技術を育成するとともに、幅広い視野からものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションをクリエイティブできる地域社会人を育成するために、以下の取組をしました。

生徒に必要な資質・能力を設定し、パフォーマンス課題を中心とした評価を行い、生徒の変容を考察しました。（図1）

## 具体的な研究内容 ア

地域を担う職業人を育成するために、地域産業と関連した指導内容の確立と精選を行った。（図2）科目「生活産業基礎」において、地域産業の理解とその特徴・課題について学習し、学校設定科目「ファッションビジネス」や科目「課題研究」では、地方発信のファッションビジネスの特徴を観察・分析するとともに、今後、生徒自身が企画、提案するオリジナル商品の魅力や価値を高めるための必要な視点を見つけ出すために、パフォーマンス課題を実施し、ルーブリックで評価した。

## 具体的な研究内容 イ

ICT を効果的に取り入れた授業実践をした。2年生の学習で、「尾州産地の魅力や価値を高めるために、取り入れるべきビジネスの視点について考えよう」という設問をもとにし、図3のステップで授業展開した。教科横断的な視点から、導入部分において1年生で学習した科目「生活産業基礎」の振り返りをした。

## 具体的な研究内容 ウ

共通教科と専門教科において教科横断的な視点に基づいた学習の実施を行った。服飾デザイン科の生徒の多くが苦手としている「数学」を教科横断的な視点から効果的に学習できないかと考え、「ARCS」のステップに基づき授業実践と生徒の評価の検証を行った。1年生科目「ファッションデザイン」においてテキスタイル提案をするが、数学的なものの見方・考え方の汎用性が高まることを目的とした。

## まとめ

科目「生活産業基礎」「ファッションビジネス」「課題研究」において、授業内容に合わせたパフォーマンス課題やポートフォリオ課題、学科ルーブリックの効果的な活用を工夫することができた。タブレット端末やアプリ活用により、生徒の思考力、分析力等が高まりさらに教科等横断的な視点に立った取組は、生徒の特性を生かした効果的な授業実践ができ、今後も取組を継続したい。



図1 必要な資質・能力

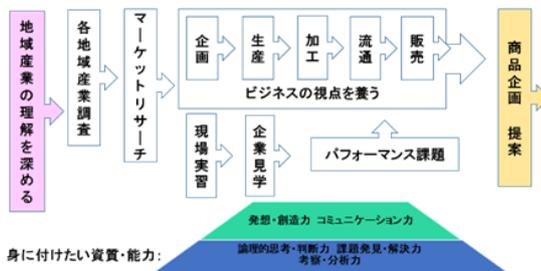


図2 科目ファッションビジネスにおける2年生の学習内容と身に付けたい資質・能力

「尾州産地の魅力や価値観を高めるために、取り入れるべきビジネスの視点について考えよう」

1年生 生活産業基礎で学習した内容について振り返ろう  
「地域産業の理解」※教科横断的な視点に基づいた学習

- ① 現在の尾州産地の課題と展望について学習しよう  
設問について一人で考えよう
- ② 設問についてペア学習をして、意見をまとめたり、共有しよう
- ③ アンケート回収ソフトを活用しよう
- ④ 設問について考えを深めよう

図3 ICTを活用した授業実践

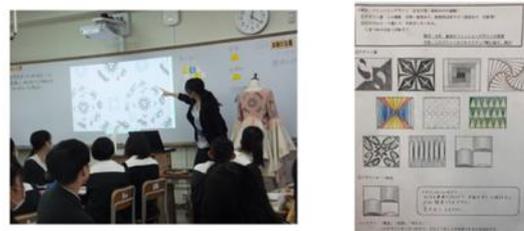
A: 注意「おもしろそうだな」「いつもの数学と違うかも？」



しきつめの授業(数学I)

図形を使ったしきつめ

R: 関連性「ファッションデザインと関連があるんだ」「先輩が作ったテキスタイルなんだ！」



しきつめの授業(数学I)→ユニットデザイン(テキスタイルデザインの提案 FD)

C: 自信「テキスタイルを考えたい!」「わたしでもできるかも!」

S: 満足感「やってよかった」「テキスタイルから考えることができるようになった」



コンクールへ挑戦

オリジナルテキスタイルの開発と作品